

# 島本町文化財調査報告書

第 12 集

広瀬・桜井地区遺跡範囲確認調査概要報告

平成 21 年 3 月

島本町教育委員会

## 序 文

島本町では、先人たちが大切に遺してきた数多くの文化財の存在が周知されています。これらの文化財を守り、後世に正しく伝えることは、現代を生きる我々の責務であります。教育委員会では、平成20年7月に島本町文化財保護条例を設置し、埋蔵文化財についても包蔵地の周知と保護を行うとともに、未だ遺跡の確認されていない地域での調査も実施し、新たな埋蔵文化財の発見に努めています。

ここに刊行いたします報告書は、広瀬地区、桜井地区の遺跡の広がりを把握することを目的とし、国庫補助事業として平成20年度に実施した遺跡範囲確認調査の成果を報告するものであります。中でも、広瀬地区では、平成19年度に引き続き水無瀬神宮敷地内での調査を行い、中世期の島本町を考えるうえで、重要な資料の一つになる結果が得られました。

最後になりましたが、調査にあたりましては、多大なご指導ご協力を賜りました関係諸機関の皆様、また発掘調査にご理解、ご協力いただきました土地所有者の方や近隣の皆様方には紙面をおかりして、深く感謝し御礼申し上げますとともに、本町の今後の文化財保護行政に対し、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年3月

島本町教育委員会

教育長 森川 四啓

## 例　　言

1. 本書は、平成20年度国庫補助金事業として、大阪府教育委員会事務局文化財保護課の指導のもと、島本町教育委員会が実施した、広瀬地区及び桜井地区の遺跡範囲確認調査報告書である。
2. 調査は、島本町教育委員会事務局生涯学習課嘱託職員久保直子を担当者とし、平成20年6月23日に着手し、島本町立歴史文化資料館整理室で引き続き整理調査ならびに報告書作成業務を実施し、平成21年3月31日に本書の刊行を以って完了した。
3. 調査及び整理作業にあたっては、下記の調査員及び調査補助員の参加を得た。(順不同)

【調査員】　坂根 瞬

【調査補助員】　上野政彦　上野恵己

4. 本書の執筆は久保が行い、作成・編集は久保、坂根、上野恵己が行なった。
5. 本調査に關わる資料の保管と活用ならびに本調査によって作成された資料などの管理は、島本町教育委員会がこれにあたる。
6. 現地作業及び整理作業においては、下記の関係機関ならび、方々には貴重なご指導ご教示を賜った。記してここに感謝の意を表します。(敬称略、順不同)  
大阪府教育委員会事務局文化財保護課、久保哲正(京都府教育委員会事務局文化財保護課)、原秀樹・山本輝雄・木村泰彦(財団法人長岡京市埋蔵文化財センター)、橋本久和(高槻市埋蔵文化財センター)

## 凡　　例

1. 本書に用いた標高は、東京湾平均海面(T. P. [Tokyo Peil])を基準とした数値である。  
方位は、国土座標第VI系における座標北である。
2. 土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀夫編『新版標準土色帖』第12版を使用した。
3. 遺構記号については、以下の通りである。  
P : ピット　　SD : 溝　　SX : 性格不明遺構
4. 本書で使用している北は、特に断りのない限りは「真北」を示す。

# 目 次

序 文  
例 言  
目 次  
挿 図 目 次  
付 表  
図 版 目 次

## 第1章 はじめに

第1節 島本町の地理的概要	1
第2節 島本町の歴史的概要	2

## 第2章 調査の概要

第1節 広瀬地区遺跡範囲確認調査	4
------------------	---

### I. 広瀬三丁目

1) 検出遺構	4
2) 出土遺物	10

### II. 広瀬一丁目

1) 検出遺構	15
2) 出土遺物	15

第2節 桜井地区遺跡範囲確認調査	17
------------------	----

### 桜井二丁目

1) 検出遺構	18
2) 出土遺物	20

## 第3章 平成20年度埋蔵文化財調査概要

## 第4章 まとめ

## 挿図目次

第1図 島本町内遺跡分布図(1/10,000)	1
第2図 調査地位置図(1/2,500)	3
第3図 第1遺構面平面図(1/50)	5
第4図 S D04平面図・断面図(1/20)	6
第5図 第2遺構面平面図(1/50)	7
第6図 第3遺構面平面図(1/40)	8
第7図 トレンチ断面図(1/50)	9
第8図 P 3出土遺物実測図(1/4)	10
第9図 北トレンチ出土遺物実測図(1/2・1/4)	10
第10図 S X02・P 6・P 7出土遺物実測図(1/4)	11
第11図 S D04出土遺物実測図(1/4)	11
第12図 南トレンチ出土遺物実測図(1/2・1/4)	12
第13図 第3遺構面・試掘瓦実測図(1/4)	13
第14図 調査地位置図(1/2,500)	15
第15図 平面図・断面図(1/50)	16
第16図 調査地位置図(1/2,500)	17
第17図 平面図・断面図(1/100)	18
第18図 拡張区平面図・断面図(1/50)	19
第19図 出土遺物実測図(1/4)	20

## 付 表

付表1 出土瓦観察表	14
付表2 平成20年度 埋蔵文化財調査の届出・通知 工事内容内訳	20

## 図版目次

### 図版 1 水無瀬離宮跡遺跡

- 北トレント全景（東から）
- 南トレント全景（北から）

### 図版 2 水無瀬離宮跡遺跡

- 北トレント P 1 刀子出土状況（南から）
- 北トレント P 3 土器出土状況（北から）

### 図版 3 水無瀬離宮跡遺跡

- 北トレント S D04（南から）
- 南トレント拡張区 瓦出土状況（北から）

### 図版 4 広瀬遺跡

- 遺構面（北から）
- 調査地北壁（南から）

### 図版 5 桜井駅跡遺跡

- 遺構面（西から）
- 拡張区遺構面（東から）
- 調査地北壁（南から）

### 図版 6 水無瀬離宮跡遺跡 出土遺物

### 図版 7 水無瀬離宮跡遺跡 出土遺物

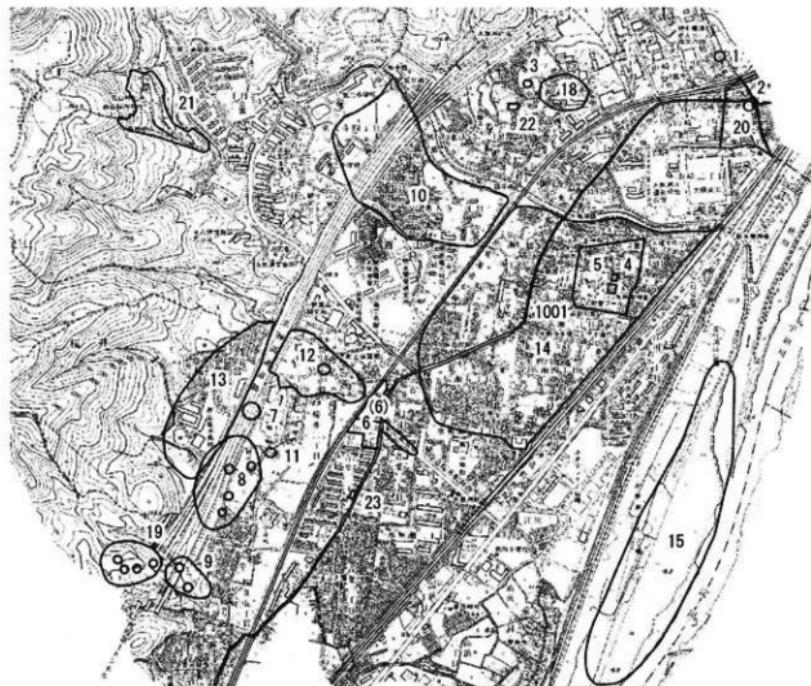
### 図版 8 水無瀬離宮跡遺跡・桜井駅跡遺跡 出土遺物

# 第1章 はじめに

## 第1節 島本町の地理的概要

島本町は、大阪府の北東端、京都府との境に位置する面積16.78km<sup>2</sup>の町である。北は京都市西京区と長岡京市、北東は大山崎町、東南は八幡市、南は枚方市、西は高槻市に隣接する。町の面積全体の約7割を山岳丘陵地が占め、人口約2万9千人の自然豊かな町である。町域の東南部で、木津川、宇治川、桂川の三川が合流して南西に流れる淀川が造り出す地形は、北側の天王山山塊と南の生駒山地の南端となる八幡市の男山丘陵とを分ける山崎狭隘部と呼ばれる。

自然環境の面でも、「大沢のスギ」や「尺代のヤマモモ」、「若山神社のツブラジイ林」が大阪



1. 山崎古墓 2. [府指] 有文 間大明神社本殿 3. 鈴谷瓦窯遺跡 4. [意文] 水無瀬神宮客殿・茶室 5. 水無瀬神宮跡遺跡  
6. 桜井駅跡道路 (6) [史] 桜井駅跡 (橋本正成伝承地) 7. 伝待宵小侍從惠・類影碑 8. 越谷遺跡 9. 源吾山古墳群  
10. 水無瀬莊跡遺跡 11. 御所池瓦窯跡 12. 桜井遺跡 13. 桜井御所跡遺跡 14. 広瀬遺跡 15. 広瀬南遺跡 18. 山崎西遺跡  
19. 神内遺跡 20. 山崎東遺跡 21. 若山神社「ツブラジイ林」 22. 街ノ平遺跡 23. 青葉遺跡 1001. 西国街道

第1図 島本町内遺跡分布図 (1/10,000)

府の天然記念物に指定を受けており、豊かな自然が残されている土地でもある。また水無瀬神宮の「離宮の水」は後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮にちなんで名付けられたと言われており、昭和60年7月に大阪府内で唯一、環境庁認定の「名水百選」に選ばれている。

## 第2節 島本町の歴史的環境

島本町では、国指定史跡桜井駅跡をはじめとして、多くの遺跡や文化財が周知されている。町の歴史を通史的に概観すると以下のとおりである。

島本町における人々の生活の痕跡をたどると、その始まりは旧石器時代にさかのぼる。山崎西遺跡は未調査のため様相は不明であるが、サヌカイト製の國府型ナイフ形石器とチャート製の剥片数点が採集されていることから、旧石器時代の終わり頃から人々が生活し始めたと考えられる。町の西侧に位置する越谷遺跡では縄文時代後期に相当する北白川上層式1期から2期の鉢・甕が多く出土し、弥生時代の土器も出土していることから、狩猟・採集の時代から集団で稻作を始める頃へと、人々の生活が途切れることなく営まれたことが想像される。その地より東側西国街道に近い青葉遺跡や史跡桜井駅周辺においても近年、弥生時代中期から後期にかけての土器が出土しており、広い範囲で古代から生活が営まれたと考えられる。桜井地区の源吾山古墳群と高槻市にまたがる神内遺跡からは、名神高速道路建設時に古墳時代の土器や鉄器が採集され、付近に古墳や古墳時代の集落があったことを示している。

奈良時代になると、奈良の東大寺に瓦を供給したのではないかとされる鈴谷瓦窯が造られた。この地の南に位置する御所ノ平遺跡では鈴谷瓦窯跡で出土したものと同種の瓦が出土し、瓦の工人の住居ではないかと考えられる竈付の住居跡が検出されている。また、西国街道を中心に広がる広瀬遺跡でも集落跡の存在が確認されており、広範囲にわたって、生活の場が存在したと考えられる。また、水無瀬川の西岸部には、東大寺正倉院に残る日本最古の絵図「摂津国水無瀬莊図」に描かれる奈良東大寺領の莊園「水無瀬莊」が造営された。

その後、平城京から長岡京、平安京へと遷都されていくにつれ、島本町は水・陸の交通上重要な位置を占めるようになった。『延喜式』にある山崎駅の記述や『土佐日記』『更級日記』などには、山崎津の賊わう様子が記載されている。平安時代以降には桓武天皇や嵯峨天皇が頻繁に訪れ、中でも後鳥羽上皇は、鎌倉時代に水無瀬離宮を造営し遊興の時を過ごした。

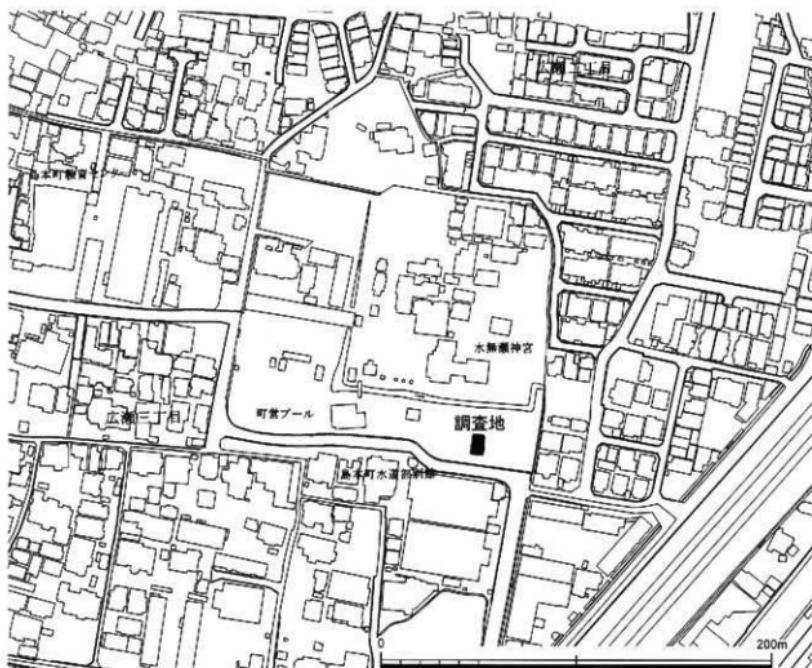
中世期以降には、太平記の記述で有名な国指定史跡桜井駅跡がある。延元元年（1336）足利尊氏の大軍を迎撃つため京都を発った楠木正成がここで長子の正行に遺訓を残して河内へと引き返らせた「楠公父子別れの地」として広く世に知られている。また、時代はさかのぼるが、桜井駅跡は奈良時代の初め、京から西国に向かう道筋に設置された駅（うまや）の一つに「大原駅」が続日本紀に記され、これが史跡桜井駅を指すものとも考えられている。

## 第2章 調査の概要

本調査事業は、平成13年度から国庫補助事業として島本町内で周知される埋蔵文化財包蔵地範囲内・外で遺構・遺物の有無などを確認するため行なっているものである。

広瀬地区では、平成18・19年度に行なった水無瀬離宮跡遺跡である水無瀬神宮公園敷地内の調査に引き続き、今年度は水無瀬神宮裏の駐車場の調査を行なった。また、個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として地下駐車場部分の確認調査を行なった。

桜井地区では、桜井駅跡遺跡での店舗建設に伴う緊急発掘調査で「埋蔵文化財関係補助事業の遂行に関する留意事項」（平成18年5月31日文化庁記念物課埋蔵文化財部門）に基づき国庫補助事業により実施する遺跡の発掘調査のうち、小規模なため費用負担を求めることが困難と判断される事業者の開発事業の本調査として要項を設置し確認調査を行なった。この場所は平成19年度に大阪府教育委員会が調査地のすぐ南側を調査し、古代～近世期にかけての遺構を検出していることから今回もその延長の遺構の検出が予想されることから調査を行なった。



第2図 調査地位置図 (1/2,500)

## 第1節 広瀬地区遺跡範囲確認調査

### I. 広瀬三丁目

調査期間：平成20年6月23日（月）試掘

平成20年8月4日（月）から8月29日（金）

調査地：大阪府三島郡島本町広瀬三丁目 地先

調査面積：約48m<sup>2</sup>

今回の調査は、水無瀬離宮跡遺跡にあたる水無瀬神宮裏の駐車場を借用して行なった。

調査は、先ず調査前に試掘坑1×2mを開け、本調査実施時での遺構面の確認をすることとした。結果、地表から約0.8m以下で遺構面があることを確認した。本調査は東西約4m、南北約12mの約48m<sup>2</sup>を調査範囲とした。なお、調査地が狭小であったため、上の置場を考慮して北半、南半のトレンチを設定し、まず北半のトレンチから掘削を行なった。調査方法は試掘の段階で遺構面を確認しているため、地表から約-0.8mまで盛土、床土、オリーブシルト層を機械で除去し、その後は人力により遺構の検出、および遺物の採取を行なった。今回の調査における層位（第7図）については、盛土が約0.7mあり、盛土（床土を含む）を除去するとオリーブ色のシルト層（第1層）が堆積している。第1層を除去すると疊を含んだオリーブの砂質層（第2層）、褐色砂質層（第4層）が堆積している。これらを除去すると、近世期包含層が検出され、これを第1遺構面としている。近世期包含層を除去すると、中世包含層（第6層）が検出され第2遺構面とした。その下層には自然流路堆積層（第9層）が0.7~0.8mの堆積で続き、玉石状の丸い石を多く含んでいる。その堆積の以下是地山と考えていたが、下層確認のため、一部断面割りを入れたところ、中世期の瓦を含む層、第3遺構面が検出されたことから、この地帯は非常に厚い中世期の層が形成されていることが判明した。しかし、深い掘削は危険を伴うため、それ以下の層の確認はできなかつた。

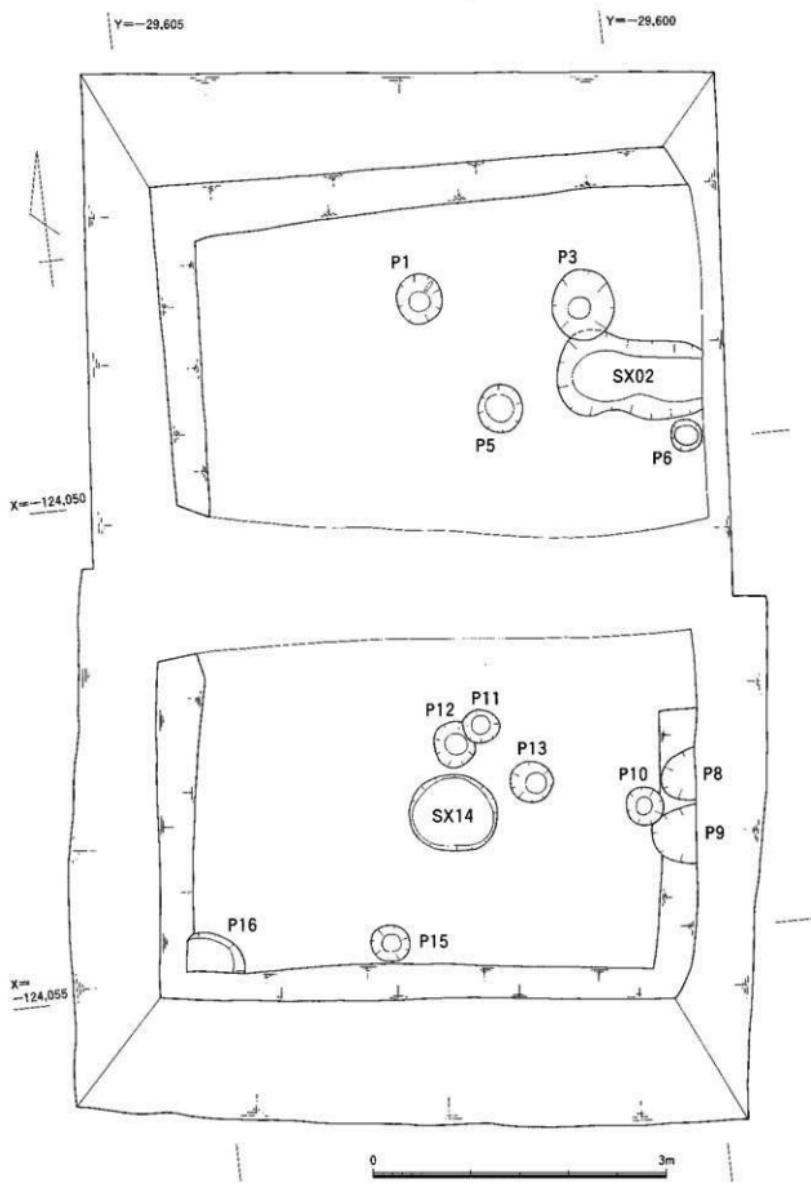
#### 1) 検出遺構

今回の調査では、近世期（第1遺構面）・中世期（第2遺構面）・中世期（第3遺構面）を検出した。主な遺構面としては、第2遺構面で検出された北東から南西方向に延びる中世期の溝と、瓦質土器が出土した二つの柱穴である。また、作業終了間際での検出となつたため詳細な調査はできなかつたが、中世期の瓦が多く出土した第3遺構面の瓦溢りである。両者の関連性は不明であるが、水無瀬離宮造営時に関わる遺構ではないかと考えられる。

以下に遺構埋土内に遺物の出土が見られた主な遺構について、その概要を示す。

#### P 1（第3図、図版2）

第1遺構面で検出され、直径が約0.4mであった。埋土の上面で刀子と鉄器（釘）が出土した。他の遺物は土師器皿片と瓦器碗で中世期のものと考えられる。刀子、釘類が出土していることか



第3図 第1構造平面図 (1/50)

ら墓坑からの副葬品とも考えられたが、遺物が少ないため断定はできない。

### P 3 (第3図、図版2)

第1遺構面で検出した。直径は約0.5mあり、P 1の東側で検出した。埋土中には土師器皿が重なって出土し、何らかの祭祀遺構とも考えられる。中世期のものと考えられ他に瓦器片も出土している。

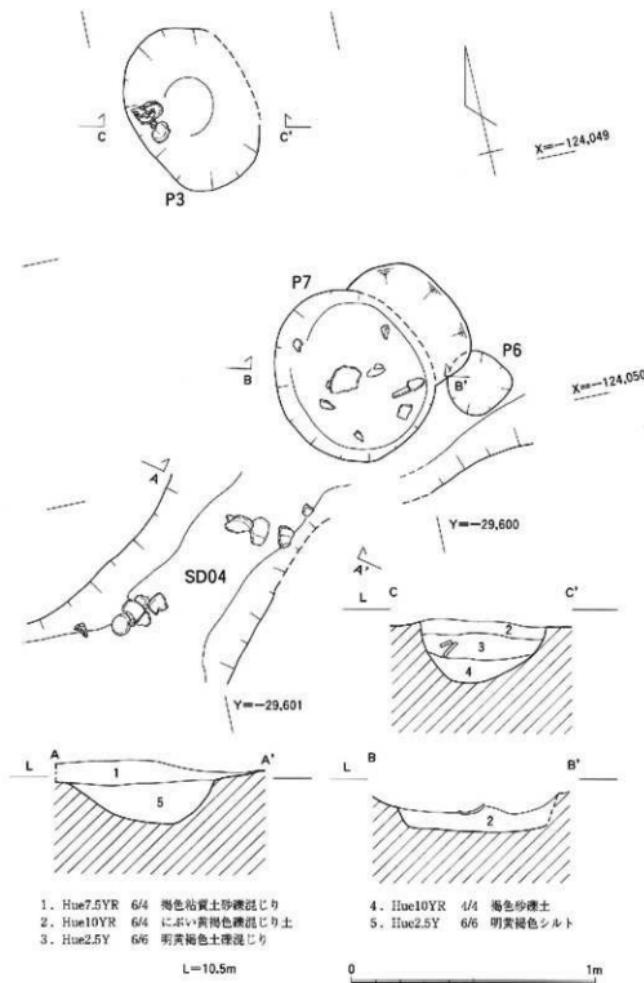
### S X02 (第3図)

北トレーナーの東端で検出した。広い範囲の土坑で埋土の上面でも土器が出土している。

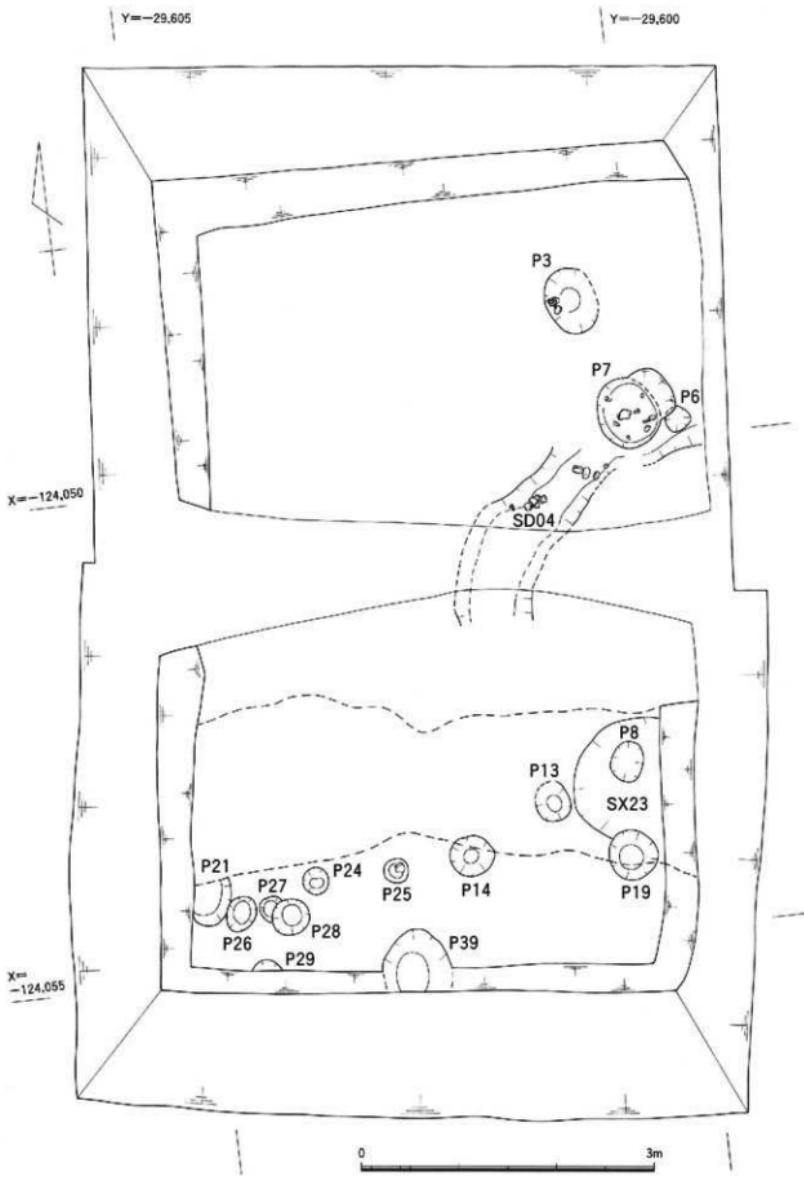
中世期、特に鎌倉時代の瓦器楕が多数出土している。瓦質の羽釜や同時期の土師器皿も出土していて、この場所で長い期間に渡って生活が繰り返されたと考えられる。

### S D04 (第4・5図、図版3)

第2遺構面で検出した。北東から南西方向に延びる中世期の溝で、今回検出したのは長さ約1.5m、幅約0.6m、深さ約0.15m~0.2mであった。主な出土遺物は瓦



第4図 SD04平面図・断面図 (1/20)



第5図 第2遺構面平面図 (1/50)

器椀・羽釜・丸瓦など同時期のものと考えられ、水瀬瀬離宮造営時期に關係する遺構の可能性も考えられる。

#### P 6・7 (第4・5図)

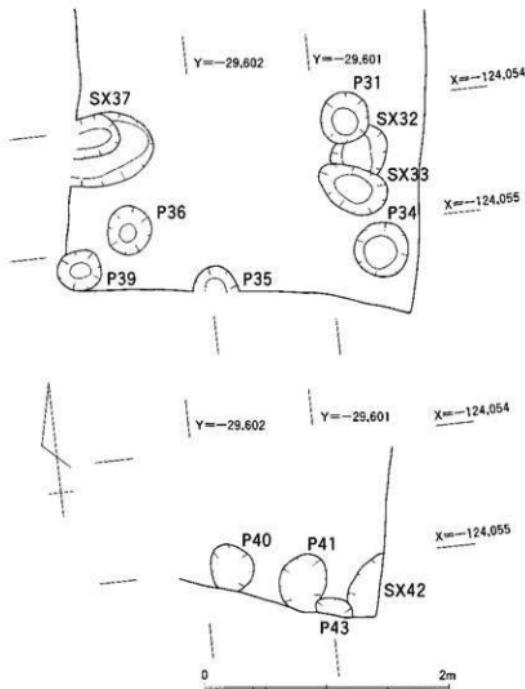
土坑S X02の下層で検出した。2つの柱穴が切り合っていてP 7のほうが若干新しいと考えられる。出土遺物には、上師器皿、瓦器椀、上師質の羽釜、須恵器鉢と多様である。図化した羽釜と土師器は、上面の土坑S X02とはほぼ同時期のものである。

#### 瓦溜り (第6図、図版3)

第3遺構面で検出した。調査区の南東端で当初は地山と考えられたところで、調査終了日、下層の確認の為断削りを入れると遺構面が存在するのが分かり、周辺を広げ精査すると上面からは、柱穴や土坑が多数検出された。そして下層からは多量の瓦が重なりあって出土した。これらの遺構については、調査終了日であったのと、深度約-2.3mの地点での検出であったのに加え、検出位置が道路下層面との境界にあったため、危険を伴うと判断し詳しい調査はできなかった。

しかし、出土遺物がすべて丸・平瓦であること、また多量の瓦が一つの場所に折り重なるように出土していることから、この場所に瓦を有した建築物があったことは疑いのない所と考えられる。

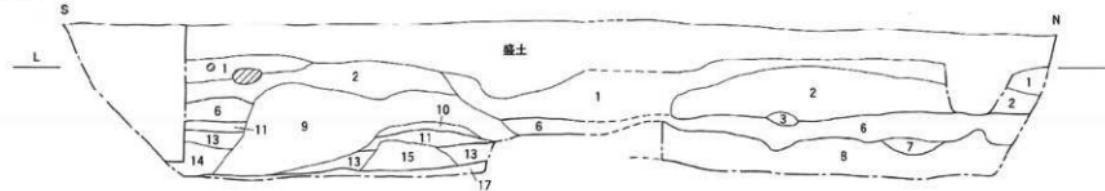
また、それらの瓦は非常に小振りで薄いことから、居住空間としての建築物というよりは、その付属として瓦を有する小建築物（祠のようなもの）であった可能性が高いと考えられる。いずれにしても、現在では想像の域を脱することはできないが平成21年度に今回の調査地を東側に延長して調査を行う予定にしているので、その調査終了後建築物や遺構の性格についての詳細を報告することとする。



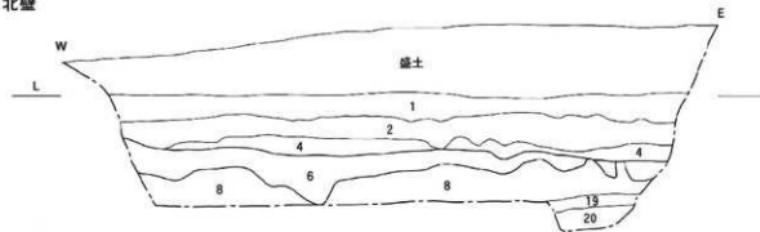
第6図 第3遺構面平面図 (1/40)

第7図 トベベチ断面図(1/50)

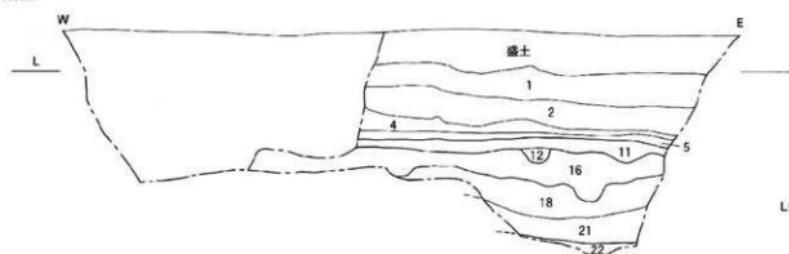
西壁



北壁



南壁



1. Hue2.5Y	4/6	オリーブシルト
2. Hue2.5Y	5/6	オリーブ砂質混じり土
3. Hue7.5YR	4/4	褐色膠泥じりシルト
4. Hue10YR	4/6	褐色砂質土
5. Hue7.5YR	3/3	暗褐色膠泥じり土
6. Hue10YR	5/8	黄褐色小礫混じる土 (マンゴン含む)
7. Hue2.5Y	4/4	オリーブ褐色膠泥じり砂質土
8. Hue10YR	3/4	暗褐色膠泥じり土
9. Hue2.5Y	4/3	オリーブ褐色砂質土
10. Hue2.5Y	5/6	黄褐色シルト膠合土
11. Hue2.5Y	7/6	明黄褐色シルト
12. Hue2.5Y	4/2	暗灰褐色膠泥じり土
13. Hue2.5Y	6/6	明黄褐色砂膠泥混じり土
14. Hue5Y	4/2	灰オリーブ小礫土
15. Hue2.5Y	4/2	暗灰褐色膠土
16. Hue2.5Y	4/3	オリーブ褐色シルト
17. Hue2.5Y	5/4	黄褐色シルト
18. Hue2.5Y	5/3	黄褐色砂質土
19. Hue2.5Y	6/4	にぶい黄褐色シルト小礫混じり
20. Hue2.5Y	5/4	黄褐色シルト
21. Hue2.5Y	5/4	黄褐色シルト (ブロック膠泥混じり)
22. Hue10YR	3/4	暗褐色膠泥じり土

L=11.0m

0

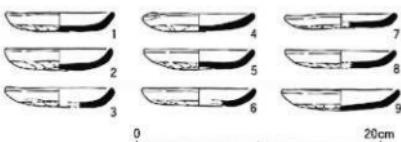
2m

## 2) 出土遺物 (第8図から第13図)

今回の調査では、主に中世期（12世紀末～13世紀半ば）の土師器皿や瓦器椀、瓦質土器、瓦を中心とした遺物が出土した。平成19年度に実施した水無瀬離宮跡遺跡の調査では、中世期後半から近世期にかけての土器の出土が主であったが、同じ遺跡内の調査ではあるが中世期（鎌倉時代）のものが出土したのは水無瀬離宮造営に関わった後鳥羽上皇の時代を考える上で非常に重要なと考えられる。以下にその詳細を述べる。

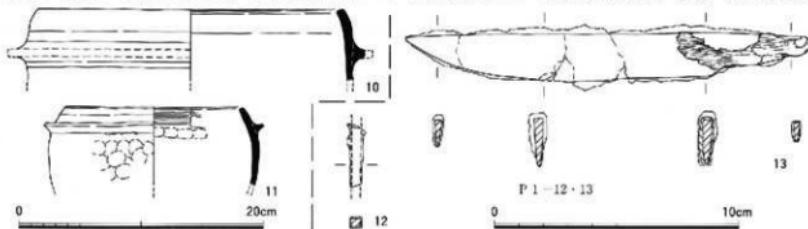
なお、実測図はできるだけ同一遺構からの出土土器をまとめて掲載し、また出土した瓦の詳細は付表1（P14）にまとめた。

北トレンチ出土の土師器皿（1～9）は、同じ柱穴P3から出土したもので、鎌倉時代

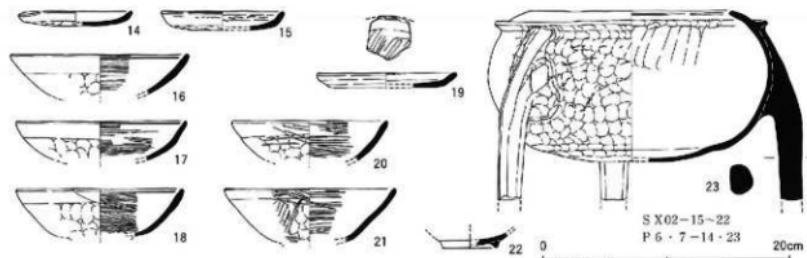


第8図 P3 出土遺物実測図（1／4）

（12世紀末～13世紀初め）の時期に相当すると思われる。直径が9cm前後の小皿ですべて手づくねで作られており、口縁部はやや内湾し肥厚する、外面端部にわずかに稜を持ち、口縁断面は三角形を呈するものが多い。色調は明赤褐色と茶黄色を呈する。胎土は荒く砂粒を含む。表面には雲母が見える。第1遺構において、1段下げおよび精査時に出土した羽釜（10）は土師質の羽釜で、口縁部は内湾し、タガの先端部分は欠損している。直径は約25cmである。羽釜（11）は瓦質で直径約15cm、小振りで体部は内湾する。外面にススの付着が見える。脚部は出土していない。鉄器（12・13）は同じ柱穴P1から出土し、12は釘、13は刀子である。刀子は柄の部分に木質を残している。全長約17cmである。土師器皿（14）は直径約9cmで明赤褐色を呈する。手づくねで作られており、口縁は内湾し肥厚する。外側に多量の雲母が見える。15も同じ時期のものと思われ、手づくねで明赤褐色を呈する。直径約8cmである。瓦器椀（16～18、20～22）は磨滅しており、底部を残すものが少ない。16は内面の口縁端部まで暗文を呈し、口縁端部にはっきりとした沈線を残す。17、18は口縁部にヨコナデを施し、外側はユビオサエ調整を行なう。20、21は内・外側に暗文が施される。22は高台のみで白色を呈していることから、炭素の吸着がとんでしまったものと考えられる。これは、21についても同じことがいえる。瓦器皿（19）は口縁部に



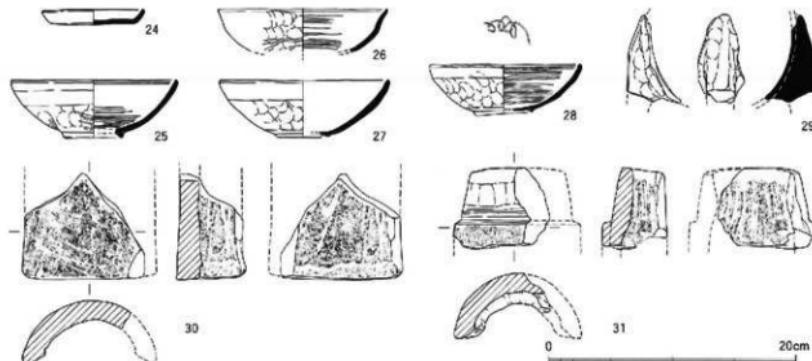
第9図 北トレンチ出土遺物実測図（1／2・1／4）



第10図 S X02・P 6・P 7 出土遺物実測図 (1/4)

ヨコナデを施し、口縁端部と見込み部分に暗文を呈する。底部はユビオサエ調整。足付羽釜(23)は直径約16cmで、非常に丁寧に作られている。体部外面は底部に至るまで細かくユビオサエが施され、外面にはスヌの付着が見られる。口縁部はヨコナデ、脚部の貼り付けはユビオサエの後ナデが施されている。口縁部内面はヨコナデ、体部は斜め方向のナデを残している。脚部はケズリの後ナデ調整を行う。24~31は中世期の溝S D04から出土したもので、土師器皿(24)は口径約8cmの小皿で口縁部と体部にはっきりとした稜を呈し内面は丁寧にナデ調整されている。表面には雲母が見える。25、27、28は瓦器椀で断面が三角形を呈する高台を持ち25、28は、はっきりとした沈線を持つ。26の口縁はやや外反し外面は口縁端部までユビオサエが施されている。S X02で出土した瓦器椀とほぼ同時期で12世紀末から13世紀中頃のものと考えられる。29は瓦質の羽釜の脚部のみで、同じ溝内の同一個体の体部の出土はなかった。ケズリが施されている。

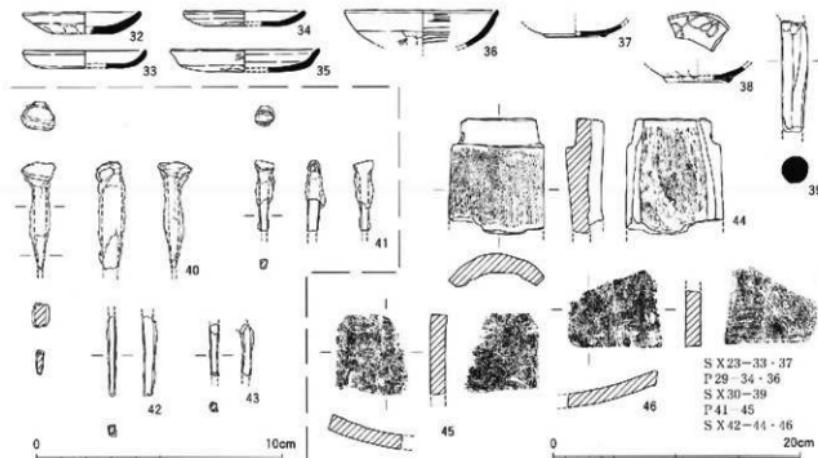
南トレンチ出土の遺物、土師器皿(32・33・34)はやや口径の大きいものもあるが、他の土師器とほぼ同時期のものと考えられる。瓦器皿(35)は表面の磨滅が激しく調整の詳細は不明である。



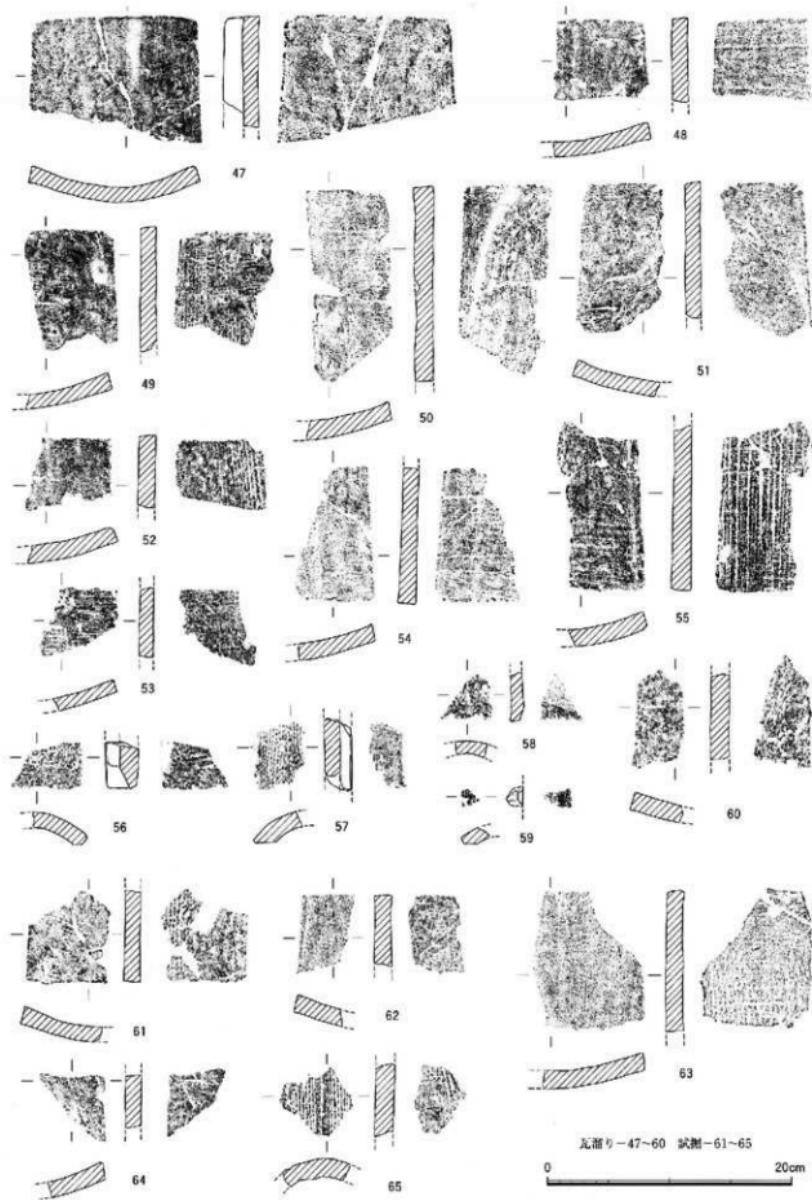
第11図 S D04出土遺物実測図 (1/4)

るが、わずかに外面に暗文の痕跡が見える。瓦器碗（36・37・38）は小片であるが、暗文を呈する。37、38は明確な三角形ではないが高台を張り付ける。39は羽釜の脚部であるが、焼きは甘く白色を呈する。鉄器（40・41・42・43）は釘で断面四角形を呈する。遺構の精査時に出土したものでいずれも同じ時代のものと思われる。

次に瓦について観察する。出土瓦はすべて平瓦と丸瓦で軒平・軒丸瓦は一点もなかった。そのため瓦当で時代を明確に決定できないが、瓦の実質的役割を果たしているといえるこれらの平・丸瓦は造瓦技法の変遷によってその時代を反映しているといえる。それは、丸瓦の場合は凹面や縁辺部の面取りの様子、玉縁部の瓦の取りつく角度にあらわれる。鎌倉時代の面取りは側端面・木口面を大きく残すように浅く施す。以後時代が新しくなっていくにつれ面取りが深く、側端面・木口面の半分以上を切り取っていく。瓦も薄くなしていくので面取りの部分が狭くなっていくが、角度はあまりかわらない。又、玉縁の取り付き角度は鎌倉・室町・江戸となっていくにしたがって角度が下がり玉縁長も短くなっていく。平瓦の場合は、時代の基準となるのは広端と狭端巾の差で、時代が新しくなるにつれその差が少なくなっていく。同時に長さが徐々に短くなっていき正方形に近くなっている。ついで時代の特徴を示すものとして凸面の叩き文様である。これは、瓦の焼成時に破裂を防ぐため粘土を叩きしめる時に粘土の離れを良くするために刻まれたものであるが、これが文様化され時代を知ることができる。一般には繩目の叩きが見られるが、これは平安時代から鎌倉時代までそれ以降は繩目を意識的に残すものはみられない。しかし、完全になくなったのではなくナデやスリケシで消去しているようである。今回の



第12図 南トレンチ出土遺物実測図（1/2・1/4）



第13図 第3構造面・試掘 瓦実測図 (1/4)

瓦面り-47~60 試掘-61~65

0 20cm

調査で出土した瓦は、中世期の溝S D04から出土した瓦（30・31）は丸瓦で30は玉縁の部分が剥離してしまっている。内面は布目を残し、側端部に面取りが施されている。31は玉縁部のみで、内面に布目を残す。南トレンチで出土した丸瓦（44）は側端部に面取りが施されているがゆるく、外面には、Z字の範記号がしるされている。又内面には組圧痕のようなものがみえる。45、46は平瓦で側端部はケズリが施されている。第13図は調査最終面で出土した瓦（47～60）であるが、平・丸瓦が出土しており表面に繩目を顯著に残すものが多い。平瓦の側端部はケズリが施され、丸瓦の側端部の面取りは狭くなっているもの、深く施されているもの様々であった。61～65は試掘時に出土した瓦であるが、これも同様の特徴を示す。このような時代的特徴を考えると、これらの瓦はほぼ鎌倉時代頃のものと思われる。

捕獲番号 図版番号	出土 トレンチ	出土 遺構	器種	時期	法量			備考
					タテ(cm)	ヨコ(cm)	最大厚(mm)	
第 11 図 30	北トレンチ	S D0 4	丸瓦	中世	( 8.5 )	( 9.8 )	21	外面：溝タタキ 内面：布目圧痕・溝目圧痕
第 11 図 31 回版 7 - 31	北トレンチ	S D0 4	丸瓦	中世	( 6.7 )	( 7.9 )	19	外面：溝タタキ 内面：布目圧痕・溝目圧痕
第 12 図 44 回版 7 - 44	南トレンチ	SX42	丸瓦	中世	( 9.4 )	( 7.7 )	21	外面：溝タタキ・線目 内面：布目圧痕・溝目圧痕
第 12 図 45	南トレンチ	F41	平瓦	中世	( 6.7 )	( 6.0 )	13	詳細不明
第 12 図 46	南トレンチ	SX42	平瓦	中世	( 6.5 )	( 7.8 )	12	外山・溝タタキ
第 13 図 47 回版 7 - 47	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 10.8 )	( 14.0 )	14	外面：溝タタキ 内面：布目圧痕
第 13 図 48 回版 7 - 49	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 6.9 )	( 8.0 )	14	外面：溝タタキ 内面：布目圧痕
第 13 図 49 回版 7 - 49	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 10.0 )	( 8.2 )	14	外面：溝タタキ 内山・溝目圧痕
第 13 図 50 回版 7 - 50	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 15.7 )	( 8.0 )	15	外面：溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 51 回版 7 - 51	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 12.8 )	( 7.5 )	13	外山・溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 52	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 6.3 )	( 7.6 )	15	外面：溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 53	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 6.5 )	( 6.3 )	12	外面：溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 54 回版 7 - 54	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 11.0 )	( 7.0 )	15	外面：溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 55 回版 7 - 55	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 14.1 )	( 8.0 )	15	外山・溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 56 回版 7 - 56	南トレンチ	瓦織り	丸瓦	中世	( 3.8 )	( 5.6 )	13	外面：溝タタキ 内山・布目圧痕
第 13 図 57 回版 7 - 57	南トレンチ	瓦織り	丸瓦	中世	( 6.2 )	( 4.1 )	14	外面：溝タタキ 内面：布目圧痕
第 13 図 58 回版 7 - 58	南トレンチ	瓦織り	丸瓦	中世	( 4.0 )	( 4.1 )	13	内面：布目圧痕
第 13 図 59	南トレンチ	瓦織り	丸瓦	中世	( 1.8 )	( 2.4 )	13	外山・溝タタキ 内面：若目圧痕
第 13 図 60 回版 7 - 60	南トレンチ	瓦織り	平瓦	中世	( 9.7 )	( 4.9 )	14	外面：溝タタキ
第 13 図 61	試掘		平瓦	中世	( 7.6 )	( 7.1 )	14	外山：溝タタキ
第 13 図 62	試掘		平瓦	中世	( 6.6 )	( 5.0 )	15	外山：溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 63	試掘		平瓦	中世	( 11.6 )	( 9.3 )	15	外山：溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 64	試掘		平瓦	中世	( 5.9 )	( 5.6 )	13	外山：溝タタキ 内面：溝目圧痕
第 13 図 65	試掘		丸瓦	中世	( 6.2 )	( 5.5 )	16	外山：溝タタキ 内面：布目圧痕

付表1 出土瓦観察表

## II. 広瀬一丁目

調査期間：平成20年9月16日（火） 試掘

平成20年9月26日（金）

調査地：大阪府三島郡島本町広瀬一丁目

調査面積：約42m<sup>2</sup>

今回の調査は、個人住宅建設に伴う緊急遺跡範囲確認調査に当たる。設計上、地下駐車場建設時の深度が約-1.8mの掘削となっていたため、遺構面が破壊されることが想定された。

これまでの周辺の立会い調査では、戸建ての木造住宅の建設が多くまた、現状が明かに從来の耕作面より盛土されているため、掘削の深度が1m程度であっても遺構面の検出には至らなかつた。しかし今回は深い掘削になるため慎重に調査を行うこととした。また、工事着工日程や天候の不順などから調査は2日間だけで終了することになった。

なお、調査面積は個人住宅であることと、住宅建設の基盤の軟化につながるのを避けるため、駐車場の計画部分に留めた。

### 1) 検出遺構

調査は、まず、試掘を1×2m入れ、遺構面の確認を行なうこととした。機械によって現状から1.8mを掘削、1.7mの盛土・耕作土・床土の下層に薄い自然堆積があり、その層を除去すると遺構面が検出された。試掘の結果を受け、後日駐車場部分での本調査を行った。

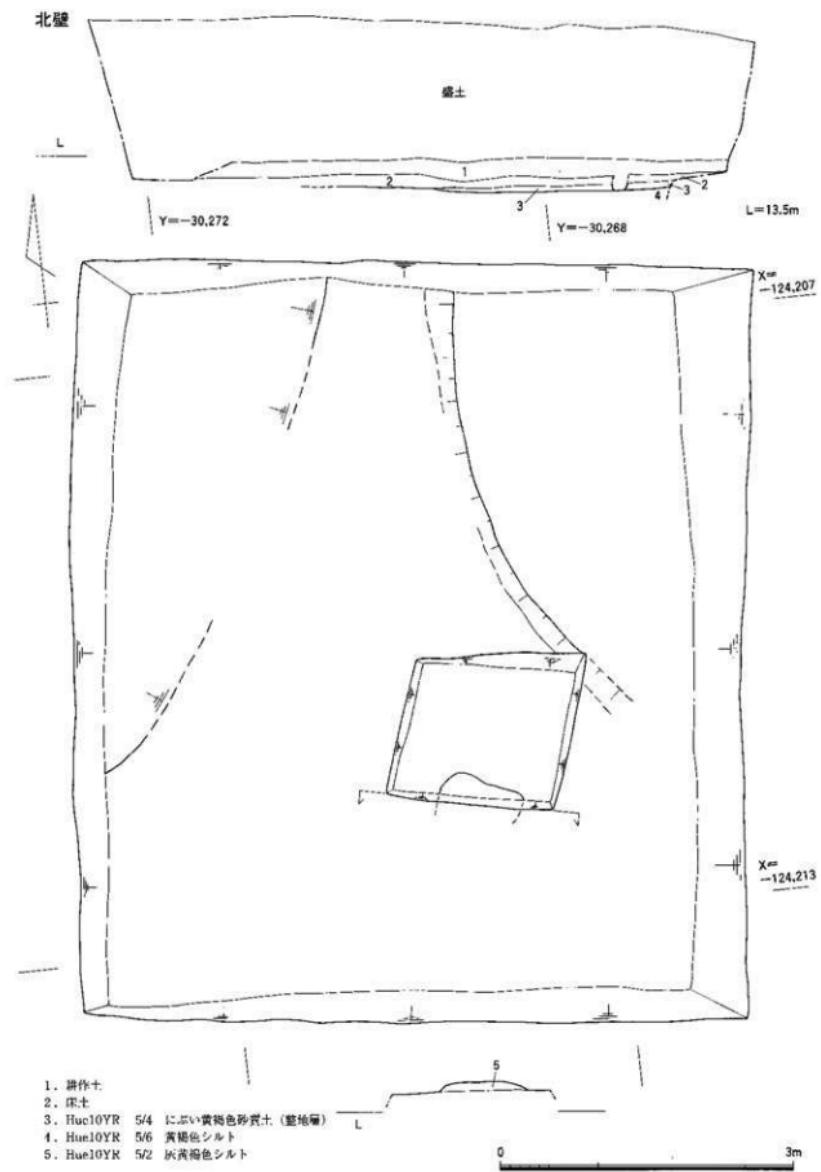
調査方法は、東西約6m、南北7mのトレーニチを設定し、盛土・耕作土・床土を機械で掘削した後、下層の自然堆積層を人力により一段下げながら遺構の検出を行った。連日の雨のため、遺構の検出は難行したが、精査を重ねる中でマンガンを含む近世～中世期にかけての遺構の存在が確認できた。

### 2) 出土遺物

出土遺物に関しては、破片のみで図化できるものはなかった、主に土師器皿片と瓦器椀片が出土した。



第14図 調査位置図（1/2,500）



第15図 平面図・断面図 (1 / 50)

## 第2節 桜井地区遺跡範囲確認調査

桜井二丁目

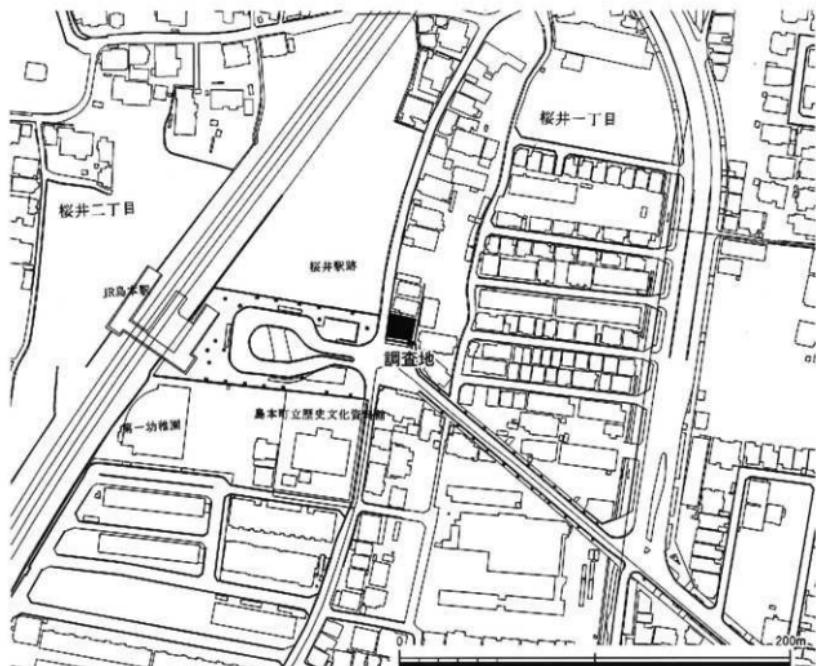
調査期間：平成20年10月9日（木）から10月24日（金）

調査地：大阪府三島郡島本町桜井一丁目2-1、2-12

調査面積：約70m<sup>2</sup>

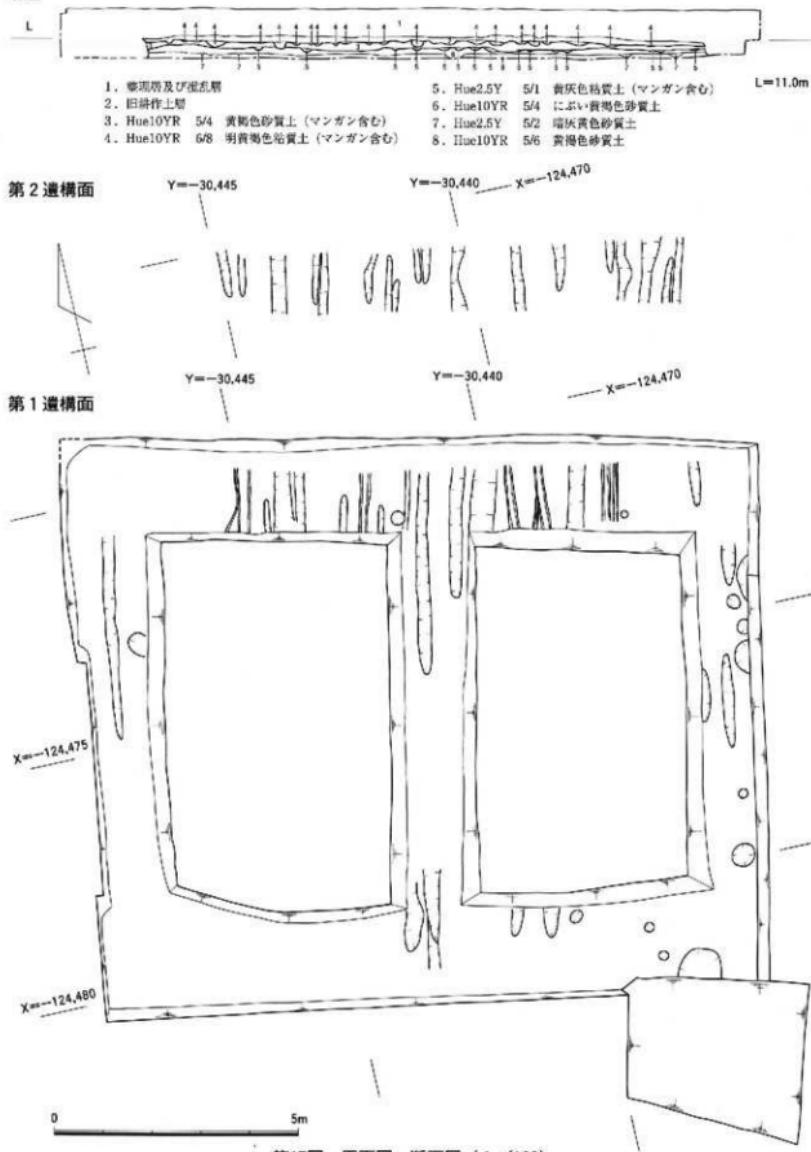
調査地周辺は、JR島本駅と阪急京都線水無瀬駅を連絡する一般道桜井線自歩道整備工事に伴う調査を、平成17年度から大阪府教育委員会が実施してきた。その結果、一般府道桜井駅跡線北側拡幅部分の東寄りでは、縄文土器包含層や弥生時代の遺構が検出され、従来不明確であった中世以前の時代の様相がわかるようになった。また、中・近世にかけても耕作層が続くことが確認されており、一帯が広く安定した生活面であったことが明らかになってきた。

今回の調査地は、平成18年10月から11月にかけて大阪府教育委員会が行なった一般道桜井線自歩道整備工事の北側拡幅部分の北側部分にあたる。



第16図 調査地位置図 (1/2,500)

北壁



第17図 平面図・断面図 (1/100)

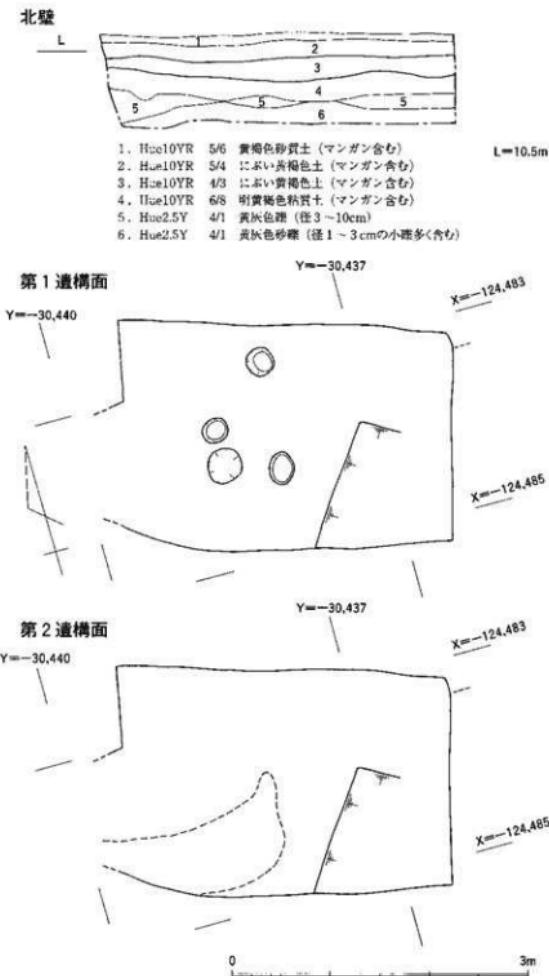
調査は、建物の安全性を考慮し、設計上深い基礎を入れる部分のみの掘削とし、2m×13mが2本、1m×6mが3本のトレーナーを設定した。掘削の深度は設計上の基礎の-1.2mまでとした。

基本の層序は、約0.5mの整地層（第1層）その下層の旧耕作土層（第2層）。この旧耕作土から調査深度の約0.4mまでが中世期の堆積層である。第3層は約0.2~0.3m程の堆積であるが、その下層第4層とは時代は基本的に同じであるが土色は違う。

### 1) 検出遺構

整地層、旧耕作土を機械によって掘削した後、人力によって精査を行った結果、遺構面第1面では、ほぼ南北方向に走る鋤溝を多数検出した。調査地の東端では直径約10cmの杭が北東方向に並んで確認できた。

また、東南の隅には明らかに近・現代の木枠の野つぼを検出したが、これについては昭和初期のものであることが近所の方の話で明らかになった。遺構面第2面でも同様に南北方向に走る鋤溝を多数検出した。第1遺構面と第2遺構面の時期は土器の出土が少ないため断定はできないが、明らかに違う時期と考えられる層が認められる。こ



第18図 拡張区平面図・断面図 (1/50)

れは、この地帯が耕作地帯として整地・削平が繰り返されたことを示す。

また、一部拡張して（第18図）調査を行なった結果、平成18年度に大阪府教育委員会が実施した調査で検出されたのと同様の疊層の広がりが検出された。

## 2) 出土遺物（第19図）

図化できるものは少なかったが、土師器皿（1・2）は口径約6cmの薄手の小皿で手づくねである。明赤褐色を呈し内面をハケで調整した後、ナデを施している。室町時代から江戸時代ころのものと考えられる。青磁碗（3）の時期は鎌倉時代から室町時代のものと考えられる。小片であるため詳細は不明である。貫入が見られる。その他の出土遺物は時代は古代から近世に至るものがあり、長い期間に渡って生活が営まれてきたことが分かる。



第19図 出土遺物実測図（1／4）

## 第3章 平成20年度埋蔵文化財調査概要

この章では、島本町内で平成20年度に実施した埋蔵文化財調査についての概要を報告したい。

平成20年度の埋蔵文化財包蔵地での開発事業に伴う「埋蔵文化財発見の届出・通知」件数は、平成21年2月28日の時点で27件である。これらに対する指導事項は、開発事業に伴う立会調査19件、試掘調査4件、発掘調査4件、工事立会0件、慎重工事0件である。また、島本町では、平成20年7月1日より文化財保護条例を制定、施行し、条例の第18条4において「埋蔵文化財の包蔵地が周知されている土地以外の土地において、土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で発掘しようとするときは、その内容について教育委員会と協議する」ことを定めた。その条例に従い今年度より埋蔵文化財包蔵地外においても届出をお願いし協議、指導を行なった。埋蔵文化財包蔵地外での開発事業に伴う「埋蔵文化財発見の届出・通知」件数は、試掘調査は1件、慎重工事は6件である。以上これらの埋蔵文化財包蔵地内・外での届出・通知にかかる工事内訳内容は下表（付表2）のとおりである。

道路	1件	鉄道	2件	空港	0件	河川	0件
港湾	0件	ダム	0件	学校	0件	宅地造成	1件
個人住宅	26件	分譲住宅	2件	共同住宅	0件	兼用住宅	0件
その他住宅	0件	工場	0件	店舗	2件	土地区画整理	0件
公園造成	0件	ゴルフ場	0件	観光開発	0件	ガス	0件
電気	0件	水道	0件	下水道	0件	電話通信	0件
農業基盤	0件	農業開発	0件	土砂採集	0件	その他開発	0件

付表2 平成20年度 埋蔵文化財調査の届出・通知の工事内容内訳

付表2のとおり、島本町教育委員会における埋蔵文化財調査は、個人住宅の新築・建て替えと分譲住宅に伴う工事立会が大半を占め、基礎杭打設工事の事前調査のために個々の調査面積は極めて狭いものであった。調査の対象となった遺跡は、包蔵地としての範囲が広いこともあって広瀬遺跡が15件と最も多く、水無瀬宮跡遺跡が5件、桜井駅跡遺跡3件、桜井御所遺跡2件、桜井遺跡1件、山崎西遺跡1件、山崎東遺跡1件である。

平成20年度の埋蔵文化財調査で特筆すべきは、宅地開発に伴う広瀬遺跡の確認調査において、平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺構面、それに伴う遺物の確認をしたことである。また、遺構面としての詳細は不明であったが弥生時代の遺物も出土した。擁壁工事に伴う立会に近い調査ではあったが、現状が耕作地であったため、現状から耕作土、床土を掘削-0.6mから-0.8mの深度で遺物包含層を確認した。又、道路部分での本調査においては、やはり同じ深度で遺構面を確認し鎌倉時代の柱穴を多数検出した。この調査地の東側にある島本第一小学校では、平成元年にプール建設に伴う工事で、東大寺の所領水無瀬荘園に関係する倉庫と思われる建物跡が見つかっており、今回の検出された柱穴群も何らかの関わりを示すものと考えられる。また、この場所は水無瀬離宮跡遺跡の西側にあたり、歴史的にも重要な場所であったことも考え、今後調査報告書をまとめていきたい。また、弥生土器が出土したことから、これまで広瀬遺跡は奈良時代から中・近世期の遺跡と考えてきたが、弥生時代の遺構が存在することも今後の調査では考慮していく必要がある。

また、上下水道ろ過施設の更新に伴う工事でも現状より-1.1mから-1.2mの深度で遺構面を検出している。この場所も水無瀬神宮南側にあたり水無瀬離宮跡の重要な遺構が検出されることが予想される。現在調査中のため、調査終了後報告していきたい。

島本町における平成20年度の埋蔵文化財調査概要は以上のとおりである。これらの申請地の調査では、大きな成果をあげたといえるであろう。平成20年3月にJR島本駅が開業し、島本町には宅地開発の波が押し寄せている。島本町での埋蔵文化財包蔵地内・外での立会い調査や遺跡範囲確認調査は地域の歴史を考える上で重要な基礎資料であり、かつ、島本町内の貴重な文化財を保護していく上でも重要なものである。こうした調査をはじめとする文化財保護活動は各申請者や町民の方々の理解・協力に成り立つもので、今後ともそうした助力を求めるながら保護に努めていきたい。

## 第4章 まとめ

この章では、平成20年度に行った発掘調査についての成果を以下に報告するものとする。

まず広瀬地区での調査であるが、前年度に引き続き水無瀬離宮跡遺跡、水無瀬神宮敷地内の調査となった。この水無瀬離宮跡遺跡は島本町の広瀬を中心とした地に位置し、後鳥羽上皇が造

営された離宮跡として有名である。また、平安時代初めから皇族達の遊獵地としても利用され、詩にも多く詠まれてきた。今回の調査はその離宮跡の中心ともいえる場所で行われたといえる。

今回検出した、北東から南西方向に延びる中世期の溝や多くの柱穴は、出土遺物の時期を考えると、水無瀬離宮造営時期に関わるものと考えられる。平成元年より島本町では発掘調査を行なってきたが、水無瀬離宮造営時に関わる遺構の検出はほとんどなかった。いわば、水無瀬離宮については全く謎であった。しかし、今回水無瀬離宮の中心とも予想される場所での遺構の検出は、この時代の島本町を考える上で大きな成果と言えるであろう。

また、広瀬一丁目での個人住宅建設に伴う調査では、これまでの近隣の調査地では遺構検出のなかった広瀬遺跡であったが、掘削の深度-1.7m地点での遺構検出はこれから宅地開発時の資料として大きな成果を得られたといえるであろう。

桜井地区においては、桜井駅跡遺跡として平成17年度から島本町教育委員会及び大阪府教育委員会が発掘調査を行なったが、今回の調査でも調査地付近一帯が、近世期に耕作地として利用されていたことが分かった。また拡張区下層で検出された礫敷状遺構は、平成19年に大阪府教育委員会が行なった調査でも同様の礫層および礫を含む粘質土層が確認されている。また、平成17年度に島本町教育委員会が行った駅前広場の整備に伴う調査でも、調査区東端で集石遺構が検出されており、旧山陽道の痕跡かとも思われたが、道路状遺構に付随るべき側溝が検出されなかことから、道路遺構とは即断できなかった。しかし、可能性がなくなったわけではなく、今後の周辺の調査に期待したい。

## 参考文献

- 島本町史編さん委員会編 1975 『島本町史 本文編』  
名神高速道路内遺跡調査会 1997 『越谷遺跡発掘調査報告書』  
「名神高速道路内遺跡調査会調査報告書」第2輯  
島本町教育委員会 1991 『島本町埋蔵文化財調査報告書』第1集  
島本町教育委員会 2003 『島本町埋蔵文化財調査報告書』第3集  
島本町教育委員会 2007 『島本町埋蔵文化財調査報告書』第9集  
島本町教育委員会 2008 『島本町埋蔵文化財調査報告書』第11集  
大阪府教育委員会 2007 「桜井駅跡発掘調査概要」  
一般道桜井駅跡線自歩道・主要地方道西京高槻線歩道整備工事に伴う調査  
大阪府教育委員会 2008 「桜井駅跡 一般道桜井駅跡線自歩道整備工事に伴う発掘調査」  
大阪府埋蔵文化財調査報告2007-10  
奈良国立文化財研究所 2000 『奈良国立文化財研究所学報』第59冊「中世瓦の研究」  
鴨元興寺文化財研究所 1983 「中・近世瓦の調査研究」一元興寺篇一

図 版



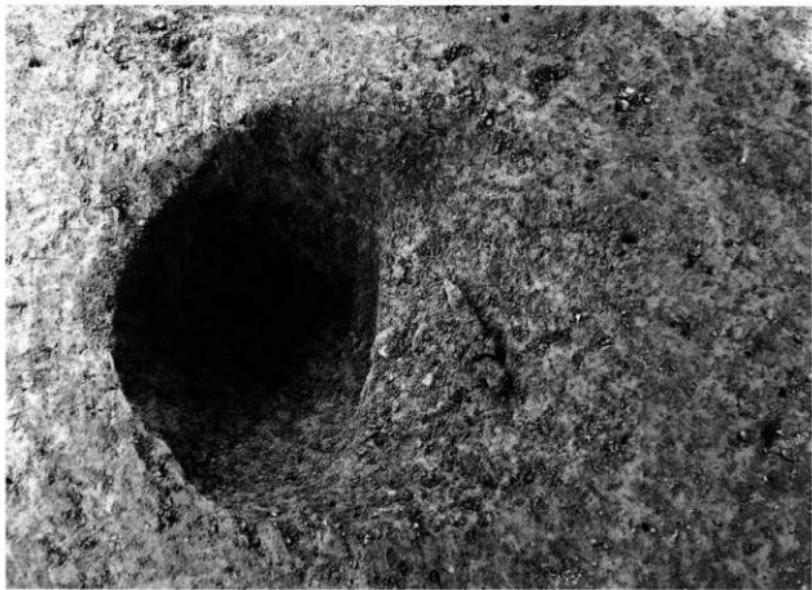
北トレンチ全景（東から）



南トレンチ全景（北から）

図版2

水無瀬離宮跡遺跡



北トレンチ P 1 刀子出土状況（南から）



北トレンチ P 3 土器出土状況（北から）



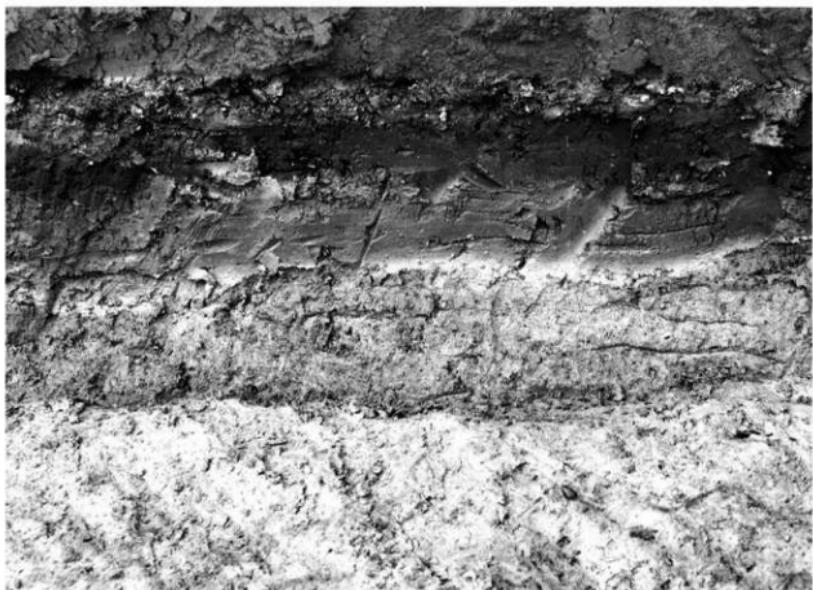
北トレンチ SD04（南から）



南トレンチ拡張区 瓦出土状況（北から）



遺構面（北から）



調査地北壁（南から）



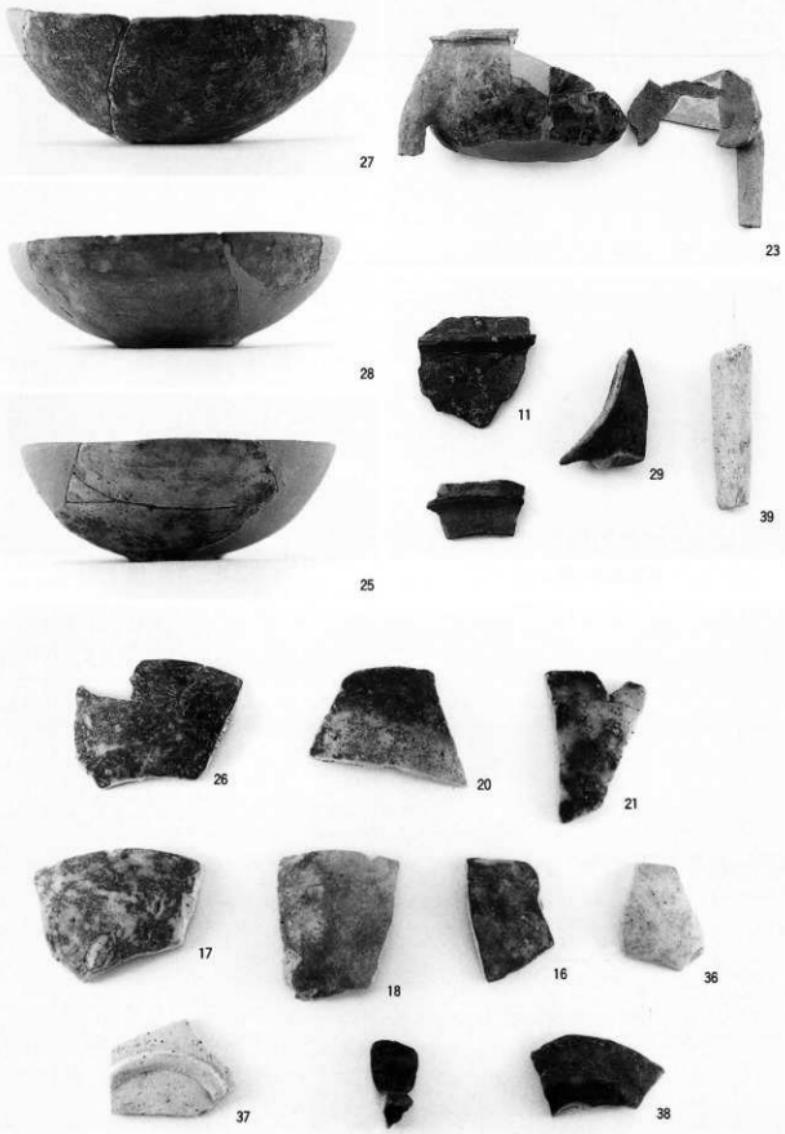
検出遺構（西から）



拡張区検出遺構（東から）



調査地北壁（南から）

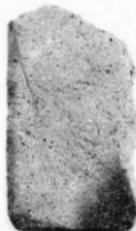




44

30

31



60



54



50



55



47



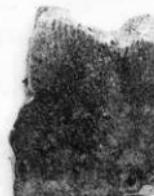
57



56



58



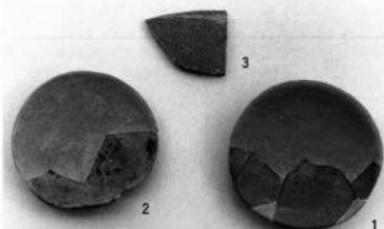
49

図版 8

水無瀬離宮跡遺跡・桜井駅跡遺跡出土遺物



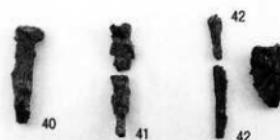
10 桜井駅跡遺跡



2

3

1



40

41



42



13



3



5



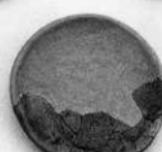
24



6



2



8



4



7



1

## 報告書抄録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうさほうこくしょ						
書名	島本町文化財調査報告書						
副書名	桜井・広瀬地X遺跡範囲確認調査報告						
卷次							
シリーズ名	島本町文化財調査報告書						
シリーズ番号	第12集						
編著者名	久保直子、坂根瞬、上野政彦、上野恵巳						
編集機関	島本町教育委員会事務局 生涯学習課						
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号 Tel.075-961-5151						
発行年月日	平成21年3月31日						

ふりがな	ふりがな	コード			北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号						
<b>遺跡範囲</b>									
水無瀬離宮 跡遺跡	島本町広瀬 三丁目地先	27301	5	34° 53' 27"	135° 40' 15"	2008.8.4 ~ 2008.8.29	48		遺跡範囲 確認調査
広瀬遺跡	島本町広瀬 一丁目1571	27301	14	34° 52' 58"	135° 39' 57"	2008.9.16 ~ 2008.9.26	42		個人住宅建 設に伴う緊 急遺跡範囲 確認調査
桜井駅跡遺跡	島本町桜井 一丁目2-1・2-12	27301	6	34° 52' 50"	135° 39' 50"	2008.10.9 ~ 2008.10.24	70		店舗建設に 伴う緊急遺 跡範囲確認 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水無瀬離宮 跡遺跡	離宮	鎌倉時代	柱穴・溝	土師器皿・瓦器 羽釜・丸瓦・平瓦	なし
広瀬遺跡	集落	奈良時代 ~ 江戸時代	なし	なし	なし
桜井駅跡遺跡	集落	鎌倉時代 ~ 室町時代	鋪溝・柱穴	土師器皿・陶器 羽釜・須恵器	なし

**島本町文化財調査報告書**  
**第12集**

発行 島本町教育委員会  
〒 618-8570 大阪府三島郡島本町桜井一丁目 1 番 1 号  
TEL 075-961-5451

発行日 平成21年 3月30日

印 刷 二星商事印刷株式会社  
〒 604-0093 京都市中京区新町通竹葉町下ル弁財天町300  
TEL 075-256-0061

